

「3歳未満児の戸外環境に関する調査」概要

本調査にあたりまして、ご協力いただきました園の先生方に心より御礼申し上げます。
結果につきまして以下の通りご報告いたします。

2019年6月

東京大学大学院教育学研究科附属

発達保育実践政策学センター 園庭調査研究チーム

秋田 喜代美（代表）・石田 佳織・辻谷 真知子・宮田 まり子・宮本 雄太

1. 調査テーマ

保育所や保育所型認定こども園における3歳未満児（以下、未満児）が使用する
園庭・地域環境の状況や活用の実態

2. 調査方法

郵送法（自記式アンケートを郵送により配布・回収）

3. 調査地域

日本国内全域（保育所型認定こども園全数および各都道府県の保育所から無作為抽出。
「屋外環境に関する調査」（2018）対象園は除く）

4. 調査項目

園の未満児に関する戸外環境について

園の戸外環境における未満児の活用の仕方について

園庭や地域利用に関する保育者間・保護者との情報共有/地域活用について

5. 調査時期・対象

調査時期：2018年11～12月

調査対象：認可保育所および保育所型認定こども園の公私立園理事長・園長・保育者・
事務長など園関係者

発送数：総数 3,500 園

回収数（回収率）：総数 1,234 園（35.3%）

6. 本調査の特徴

- ・これまでの園庭に関する研究や指針は幼児対象が多いこと、未満児に適した戸外環境を明らかにする必要があることを踏まえ、未満児が利用する園庭における環境や実践および園外の戸外環境の活用についての実態を明らかにすることを目的とした。
- ・これまでに本研究チームが行ってきた 2 回の調査（「園庭に関する調査」「屋外環境に関する調査」）の結果を踏まえており、園庭および園外の環境の活用の実態、保育者間の情報共有等の実態について幅広く捉えることができる。

7. 本調査報告の構成

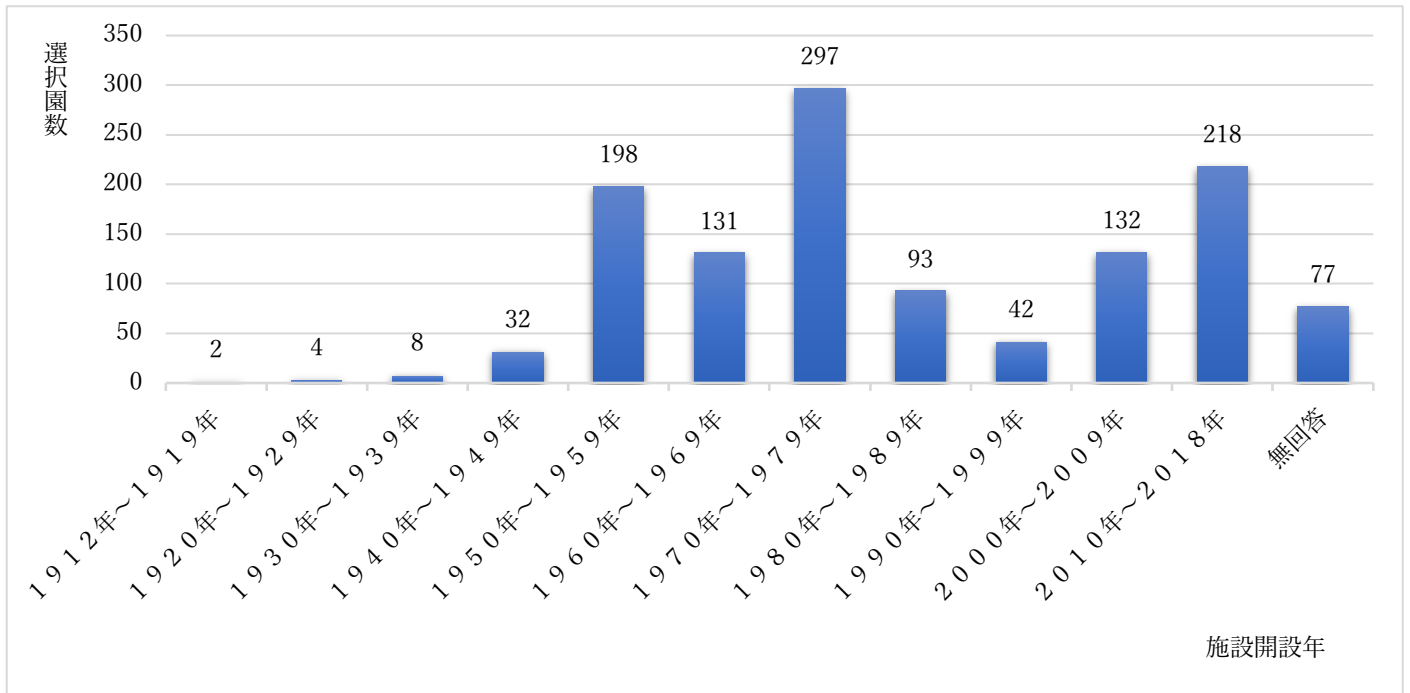
- I. 園児数・園の環境・保育形態
- II. 園で 3 歳未満児が利用する戸外環境
- III. 3 歳未満児が利用する戸外環境活用の仕方
- IV. 園庭や地域利用に関する保育者間・保護者との情報共有
- V. 園外で 3 歳未満児が利用する戸外環境の活用の実態

※本報告書を読む際の注意点

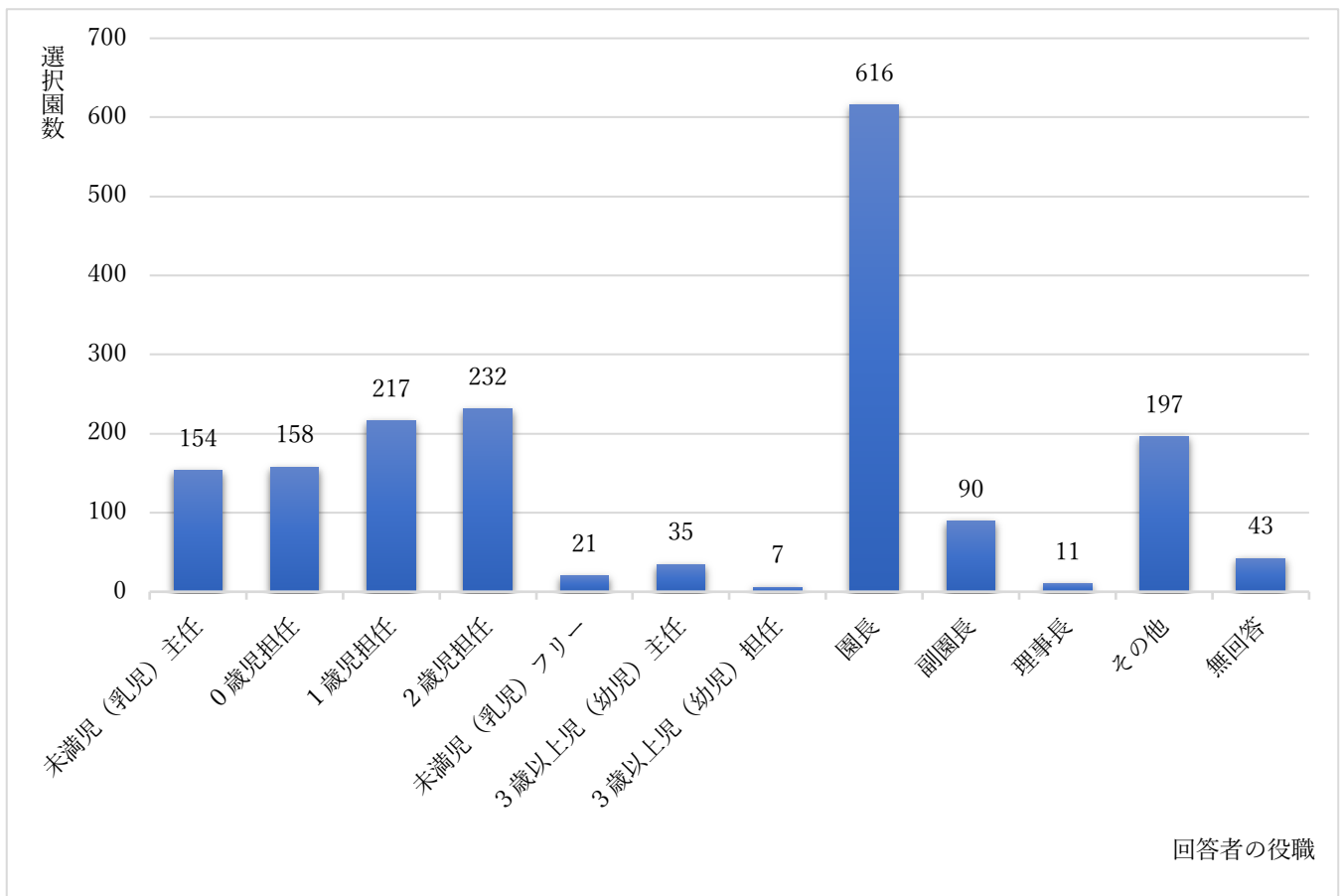
- ・本報告書において、「未満児」は 0-2 歳児クラスのことを指します。
- ・本報告書で使用している百分率（%）は、原則として小数点第 1 位を四捨五入して表示しています。

I. 園児数・園の環境・保育形態

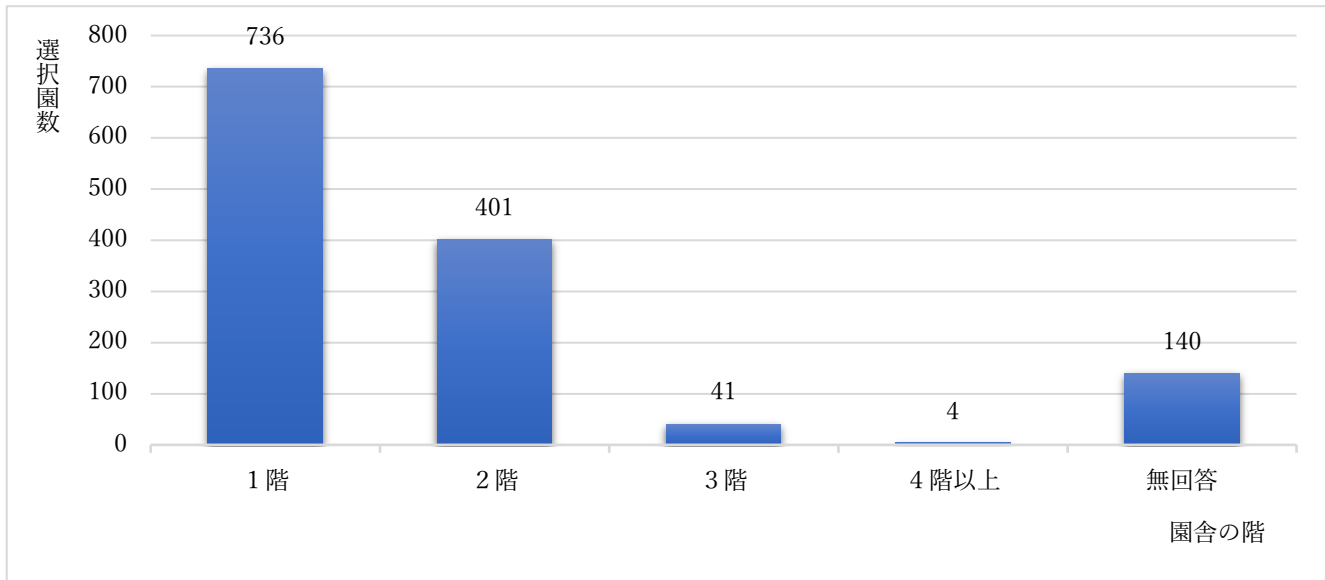
1-1. 施設開設年 (N=1234)



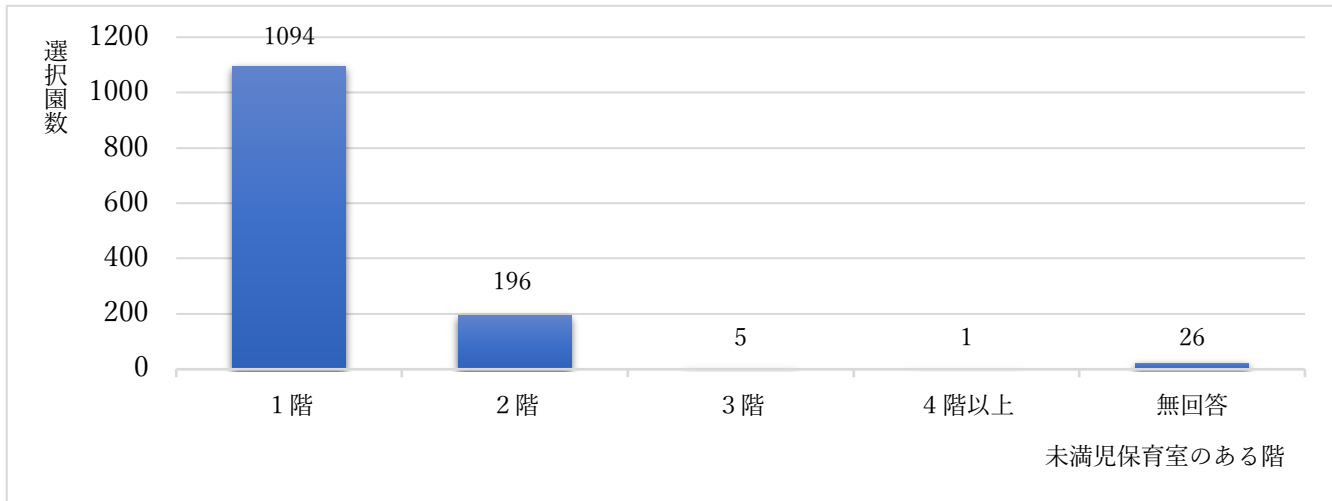
1-2. 回答者の役職 (N=1234, 複数回答項目)



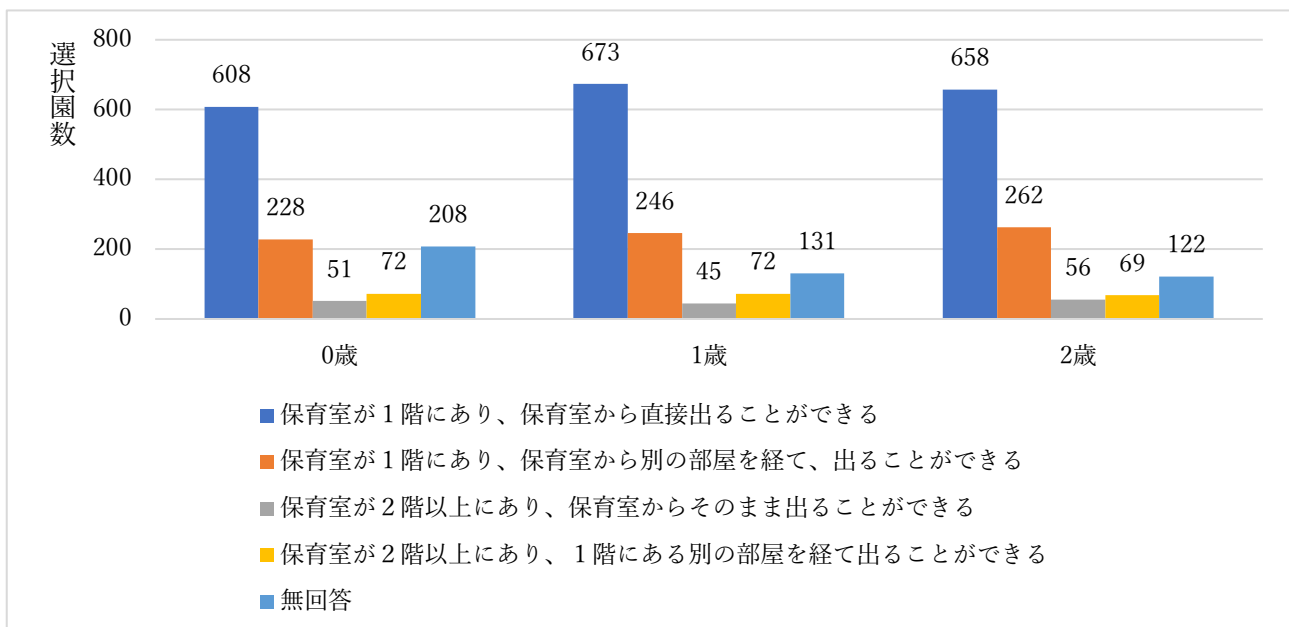
1-3. 園舎の階 (N=1234, 複数回答含む)



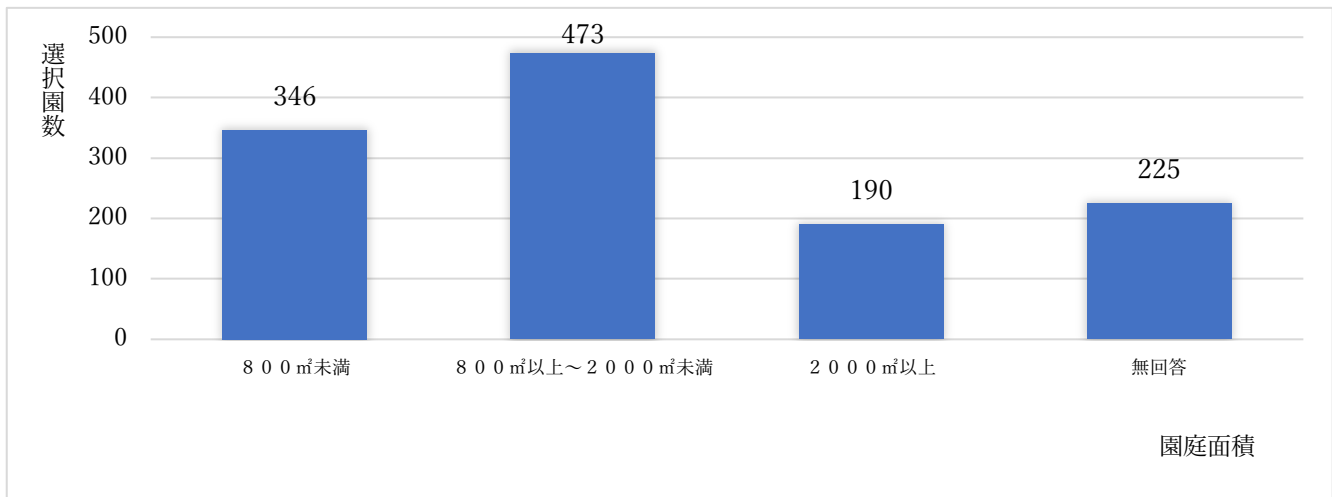
1-4. 未満児保育室のある階 (N=1234, 複数回答含む)



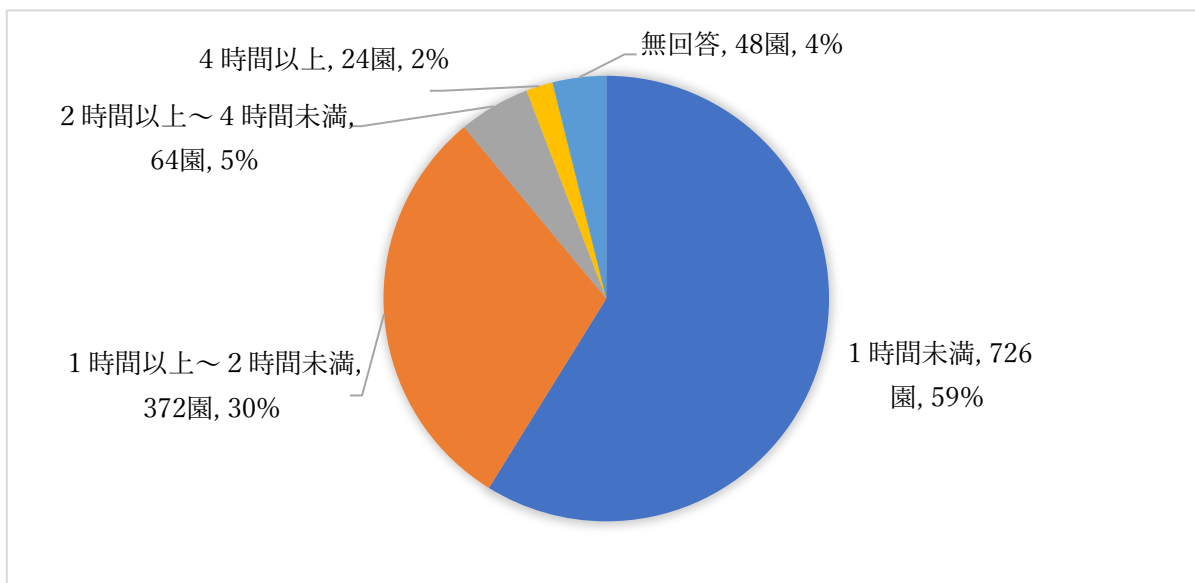
1-5. 未満児保育室から園庭への経路 (n=1167)



1-6. 園庭面積(N=1234)

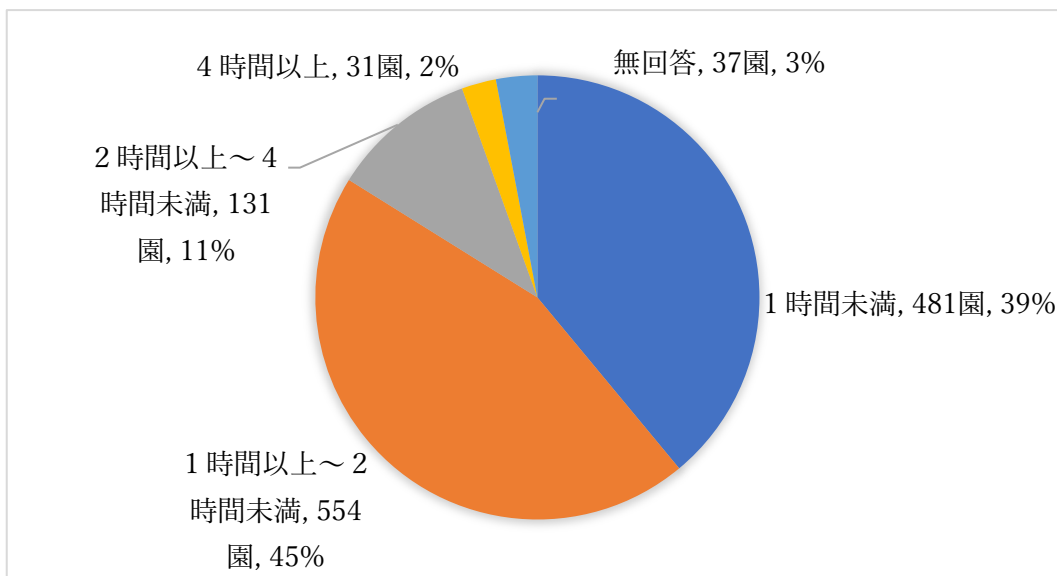


1-7. 1歳児が園庭で過ごす、年間を通した1日あたりの平均時間 (N=1234)



「1時間未満」が最も多く、次いで「1時間以上～2時間未満」となっている。

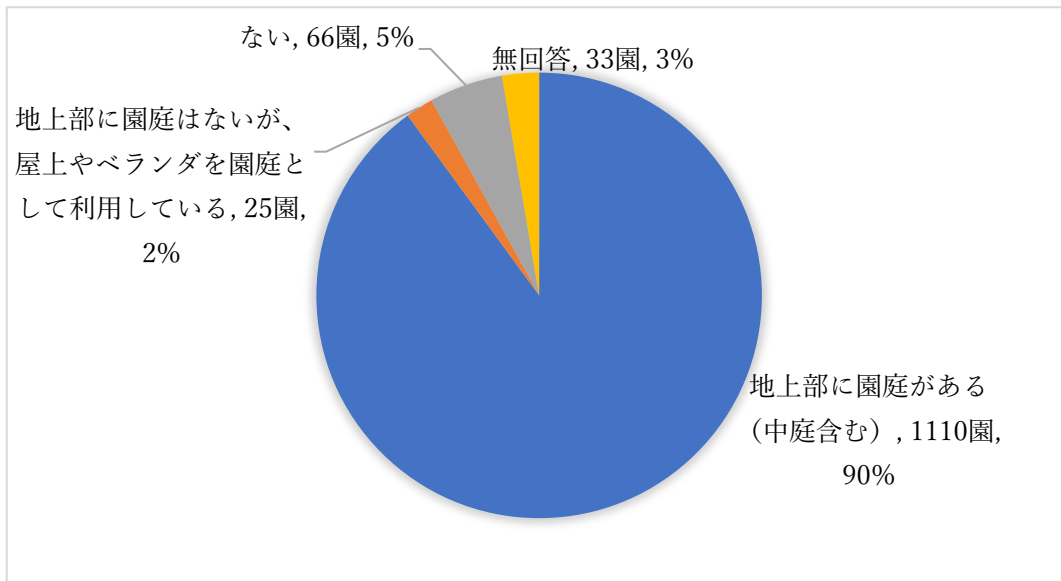
1-8. 2歳児が園庭で過ごす、年間を通した1日あたりの平均時間 (N=1234)



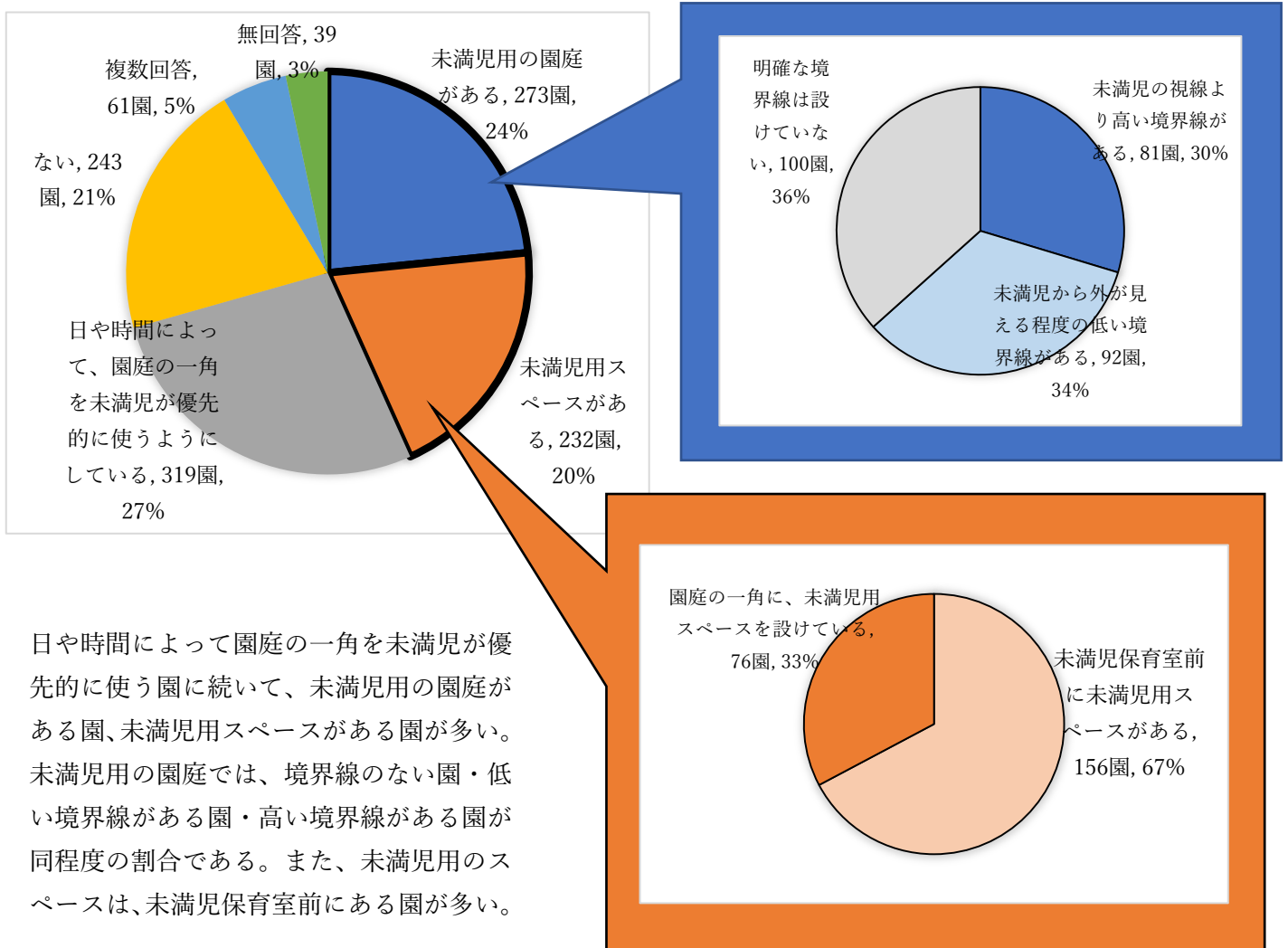
「1時間以上～2時間未満」が最も多く、次いで「1時間未満」となっている。

Ⅱ. 園で3歳未満児が利用する戸外環境

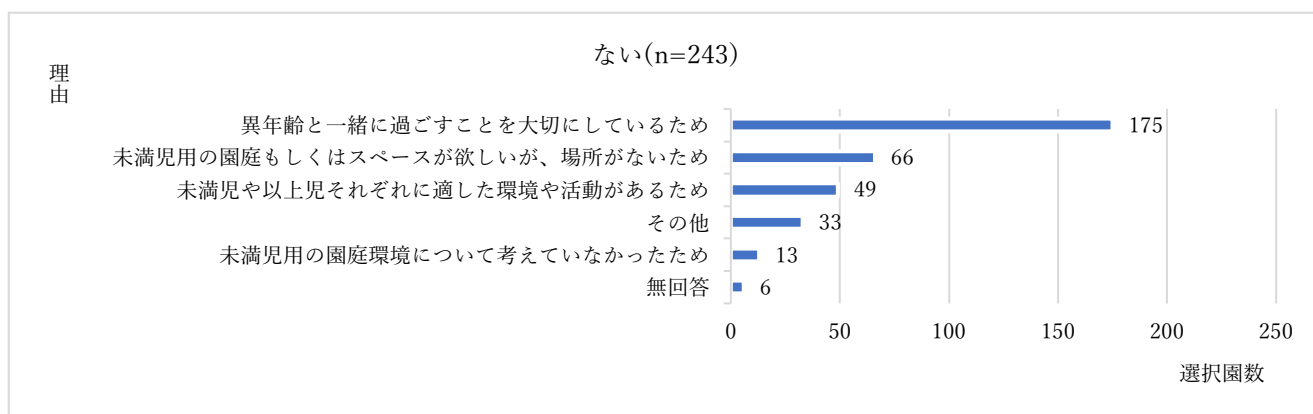
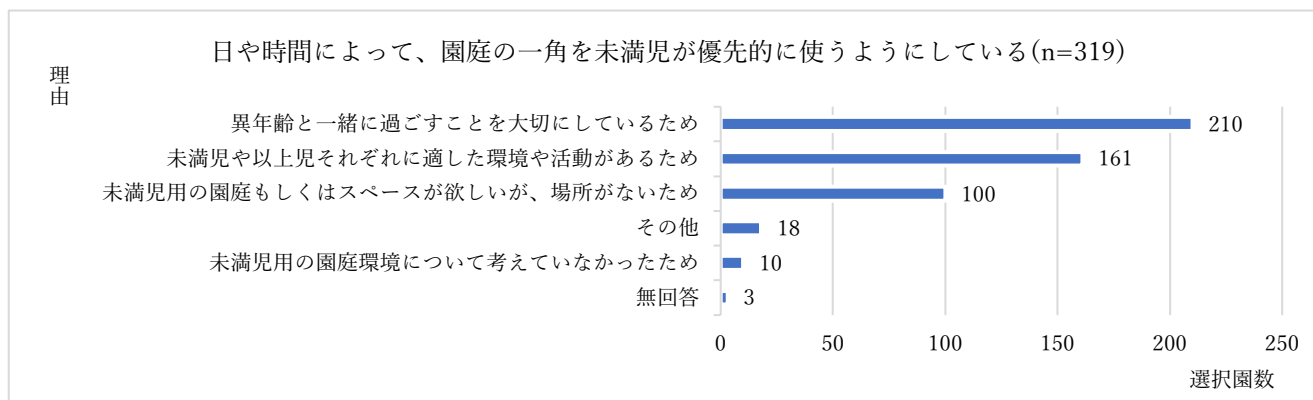
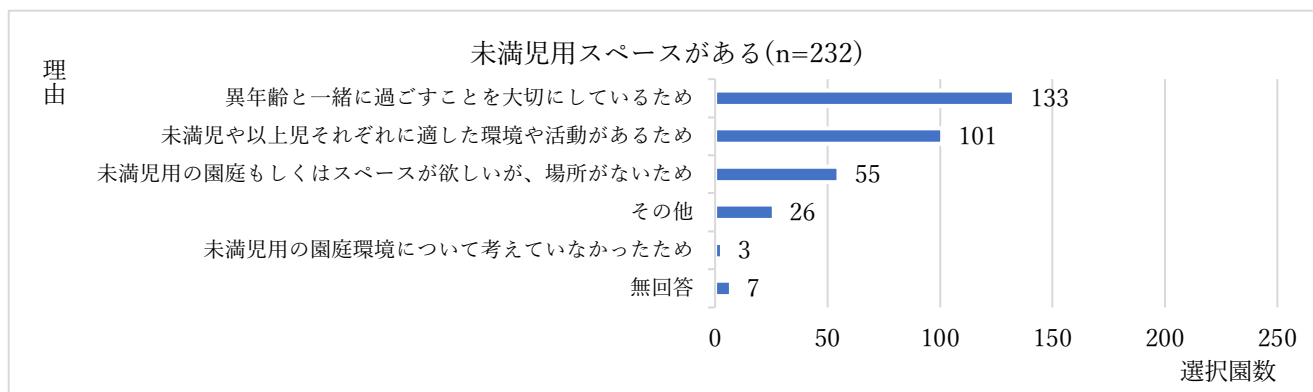
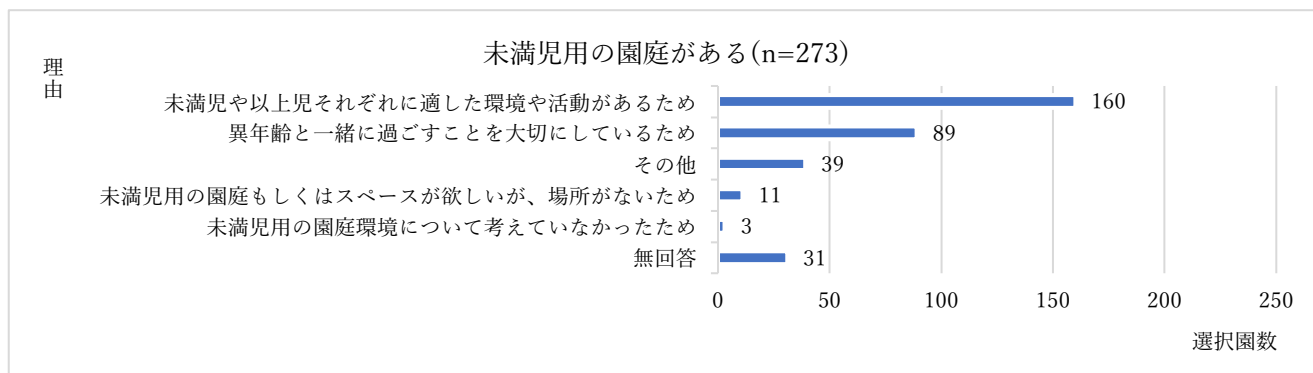
2-1. 園庭の有無(N=1234)



2-2. 未満児用の場所や、未満児の利用を意図した場所(n=1167)

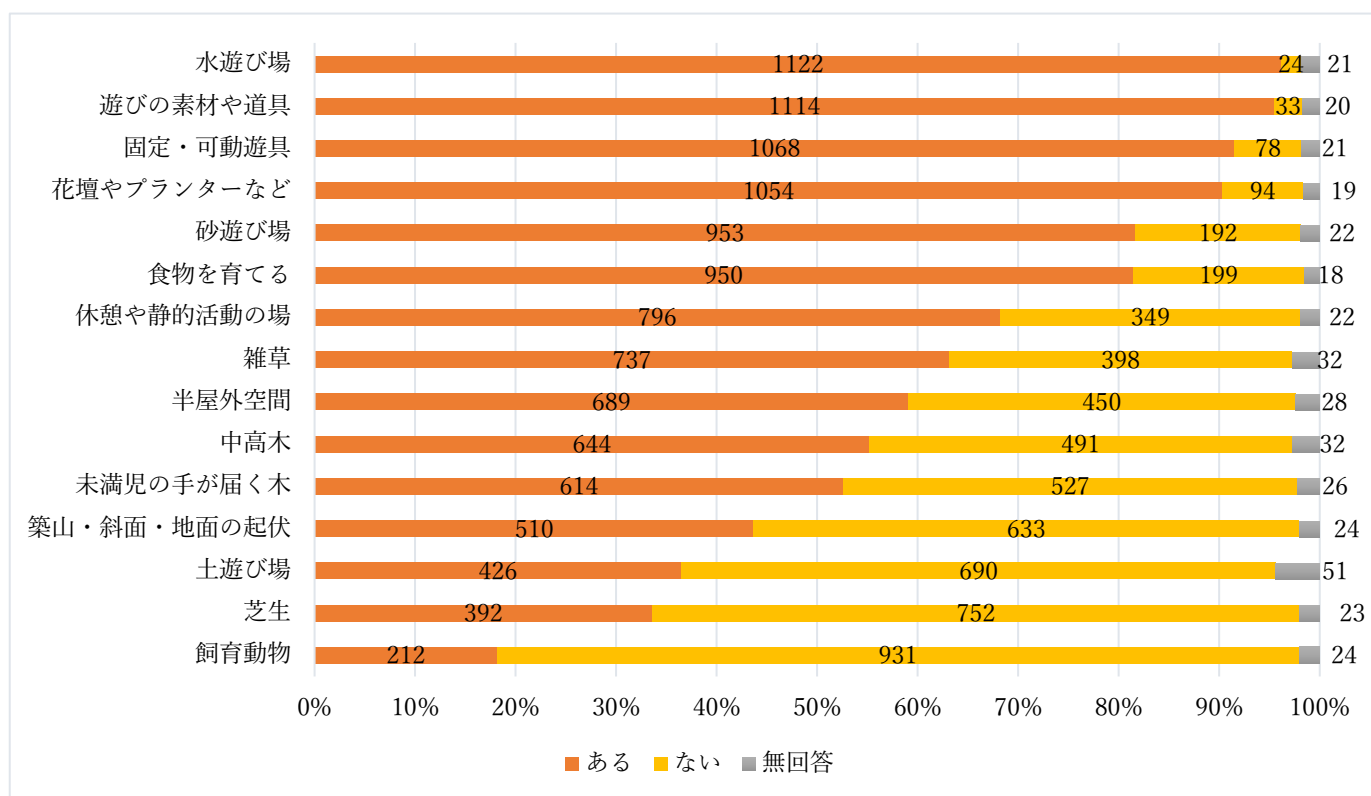


2-3. 上記 2-2. (未満児用の場所) とその理由



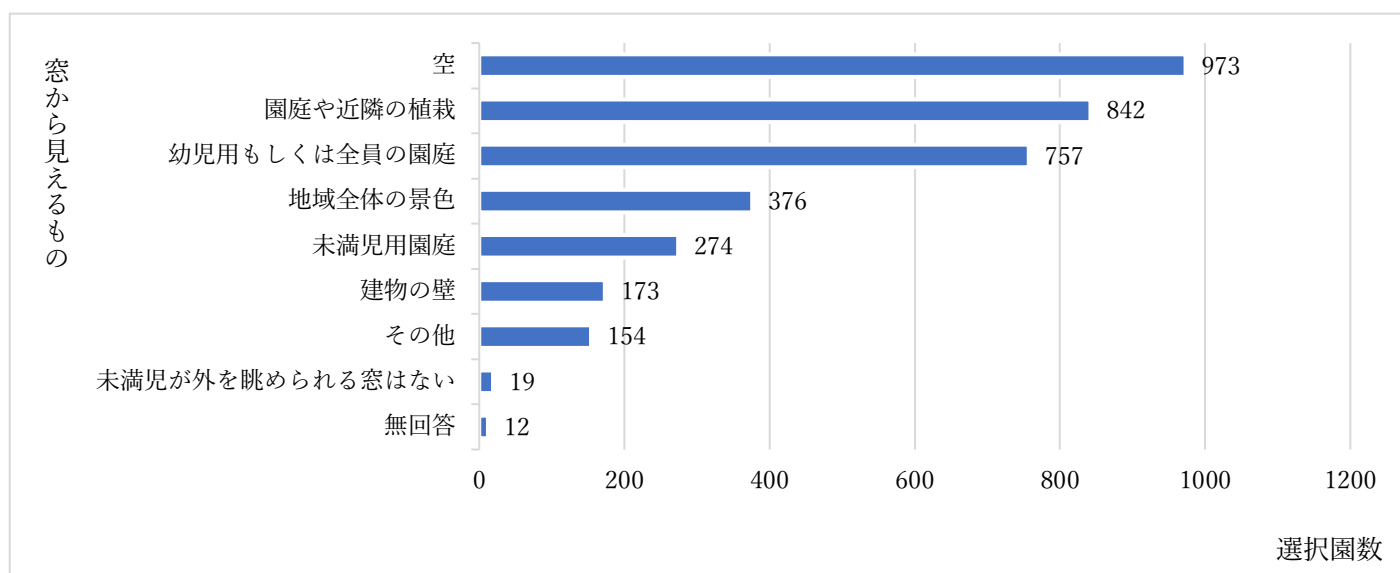
未満児用の園庭がある園では「それぞれに適した環境や活動があるため」という理由が最も多く、次いで「異年齢と一緒に過ごすことを大切にしているため」という理由が多い。未満児用園庭がない園（未満児用スペースがある・日や時間によって・ない）では「異年齢と一緒に過ごすことを大切にしているため」が最も多いが、「未満児用の園庭もしくはスペースが欲しいが、場所がないため」という回答も 2 番目あるいは 3 番目に多い。

2-4. 未満児用・未満児の使用を意識した環境 (n=1167, グラフ中数字は園数)



「未満児用・未満児の使用を意識した環境」として、「水遊び場」「遊びの素材や道具」「固定・可動遊具」「花壇・プランターなど」は9割以上、「砂遊び場」「食物を育てる場」は8割以上の園で有している。一方、「築山・斜面・地面の起伏」「土遊び場」「芝生」「飼育動物」を有する園は半数以下である。

2-5. 未満児保育室の窓から見えるもの (N=1234, 複数回答項目)

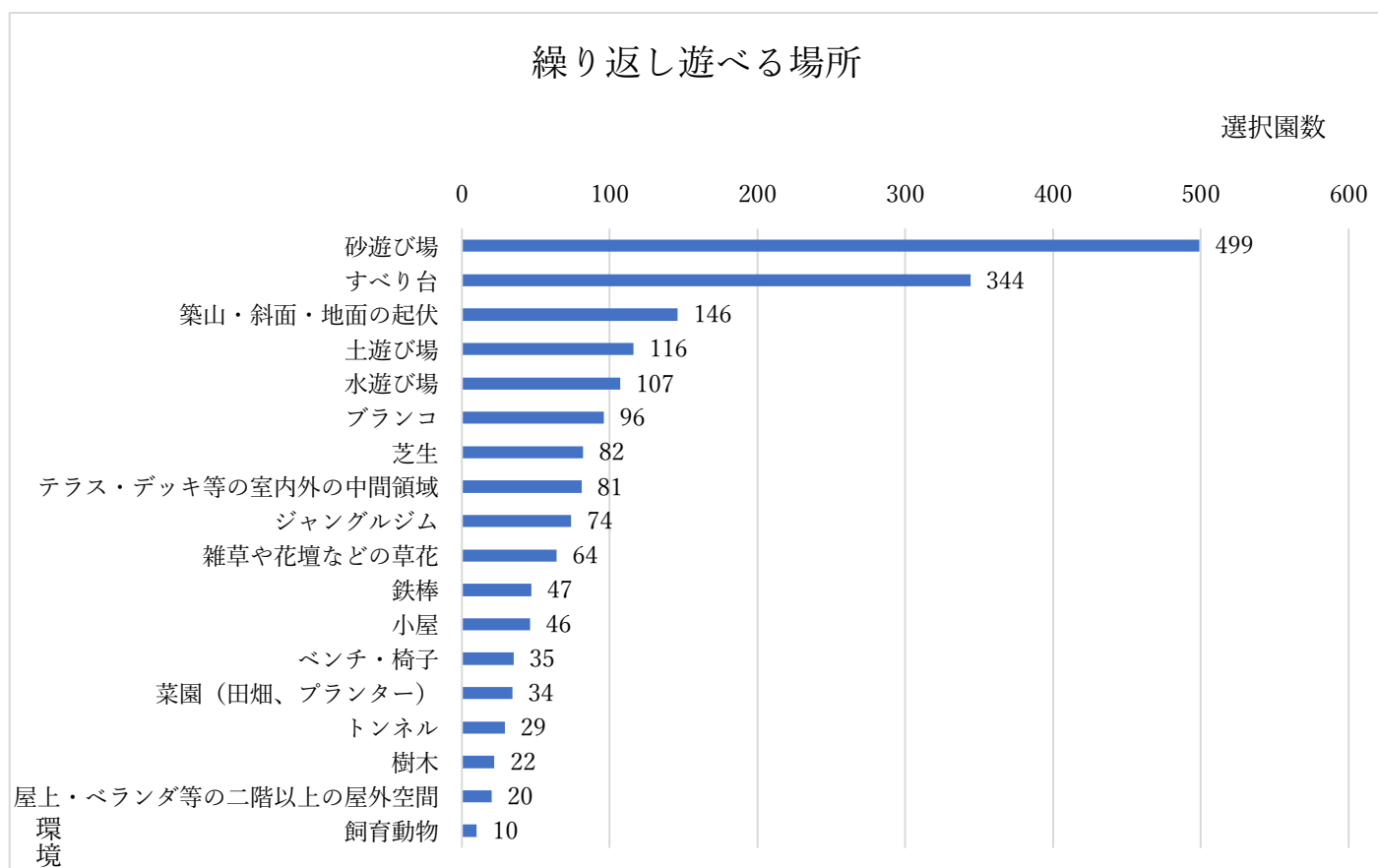
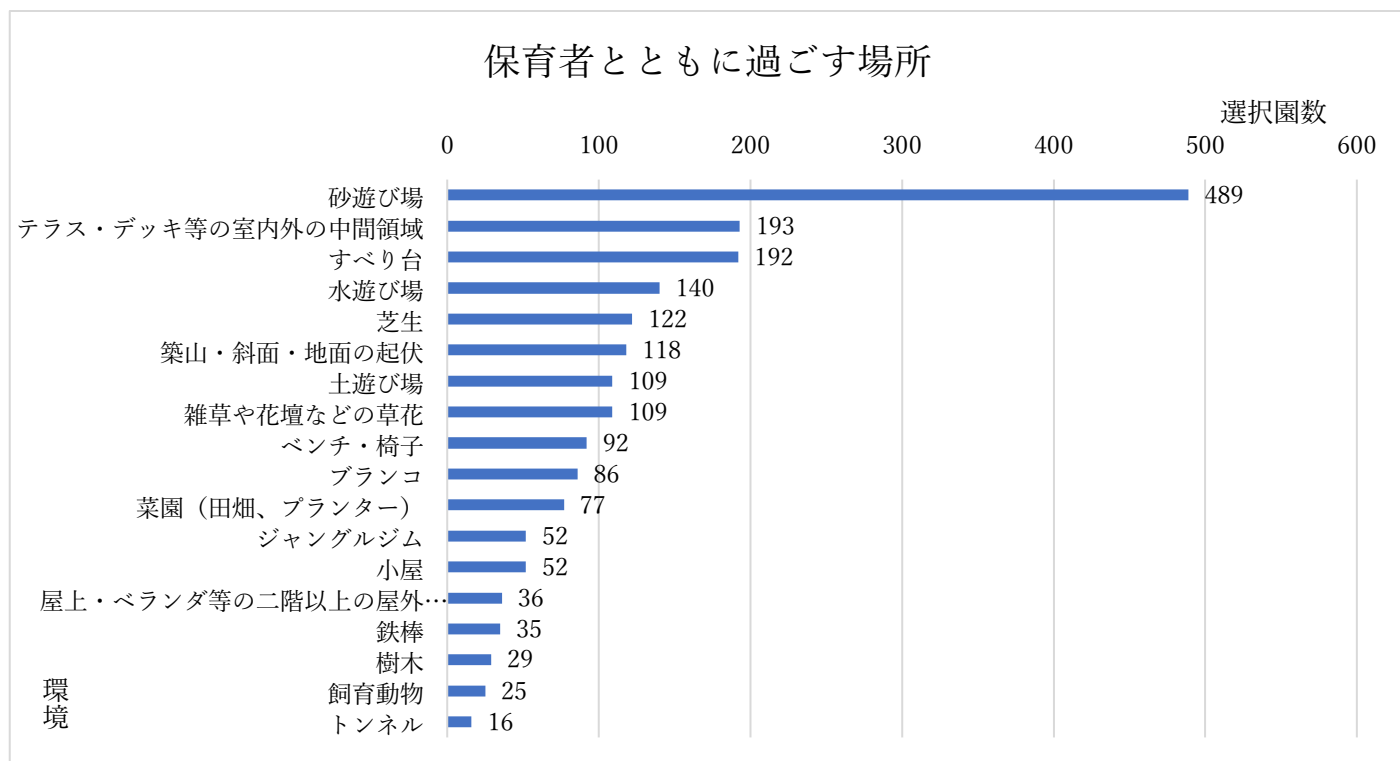


未満児保育室の窓から見えるものとしては「空」が最も多く、次いで「幼児用もしくは全員の園庭」「園庭や近隣の植栽」となっている。

Ⅲ. 3歳未満児が利用する戸外環境の活用の仕方

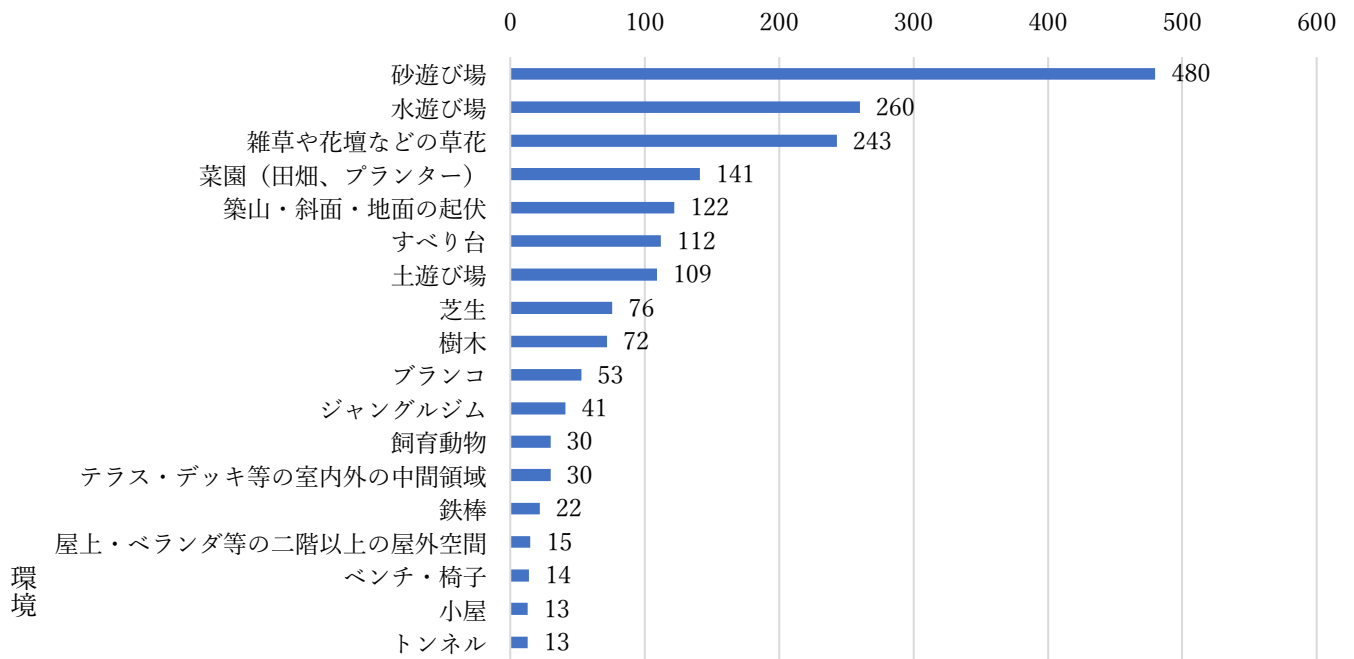
3-1. 未満児が利用する場所について（該当なし・無回答を除き、n=589）

場所の特徴ごとに、環境を3つまで選択する項目。本報告はそのうち、具体的な環境の選択数が特に多かった3項目（「保育者とともに過ごす場所」「繰り返し遊べる場所」「五感が刺激される場所」）に焦点を当てて集計したものである。なお、環境の選択数が少なかった項目としては「様々な活動の拠点となる場所」「探索ができる場所」「じっくり取り組める場所」であった。



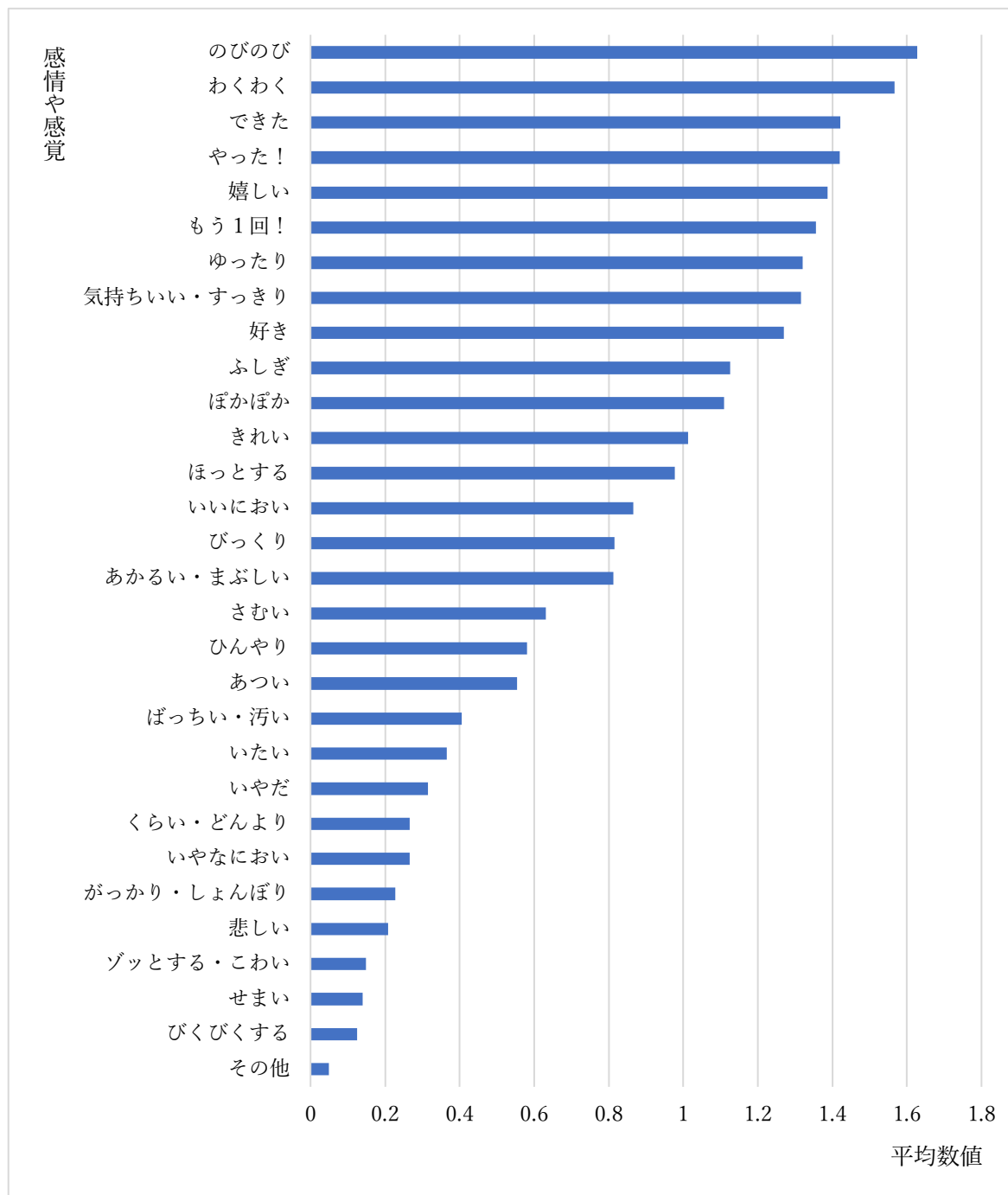
五感が刺激される場所

選択園数



3-2. 未満児の園庭で大切にしたい感情や感覚

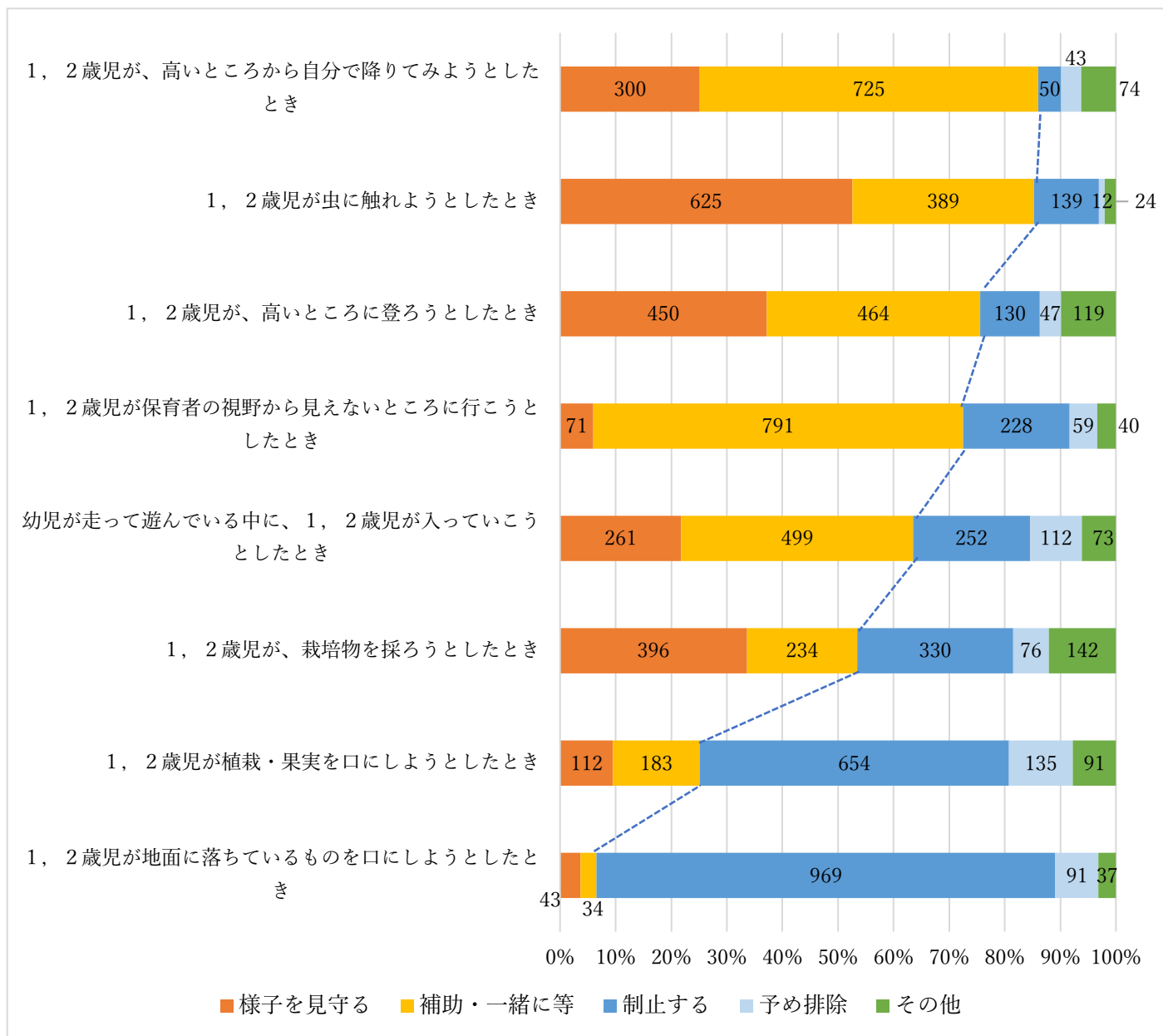
「とても当てはまる」=2、「当てはまる」=1、選択なし=0とした場合の各項目の平均数値 (n=1167)



未満児の園庭で大切にしたい感情や感覚として、「のびのび」等の肯定的な感情や感覚（グラフ上方）は評定平均値が高く、「いたい」等の否定的な感情や感覚（グラフ下方）は評定平均値が低い。

3-3. 安全等のルールについての援助として最も多いもの（n=1167, グラフ内数値は選択園数）

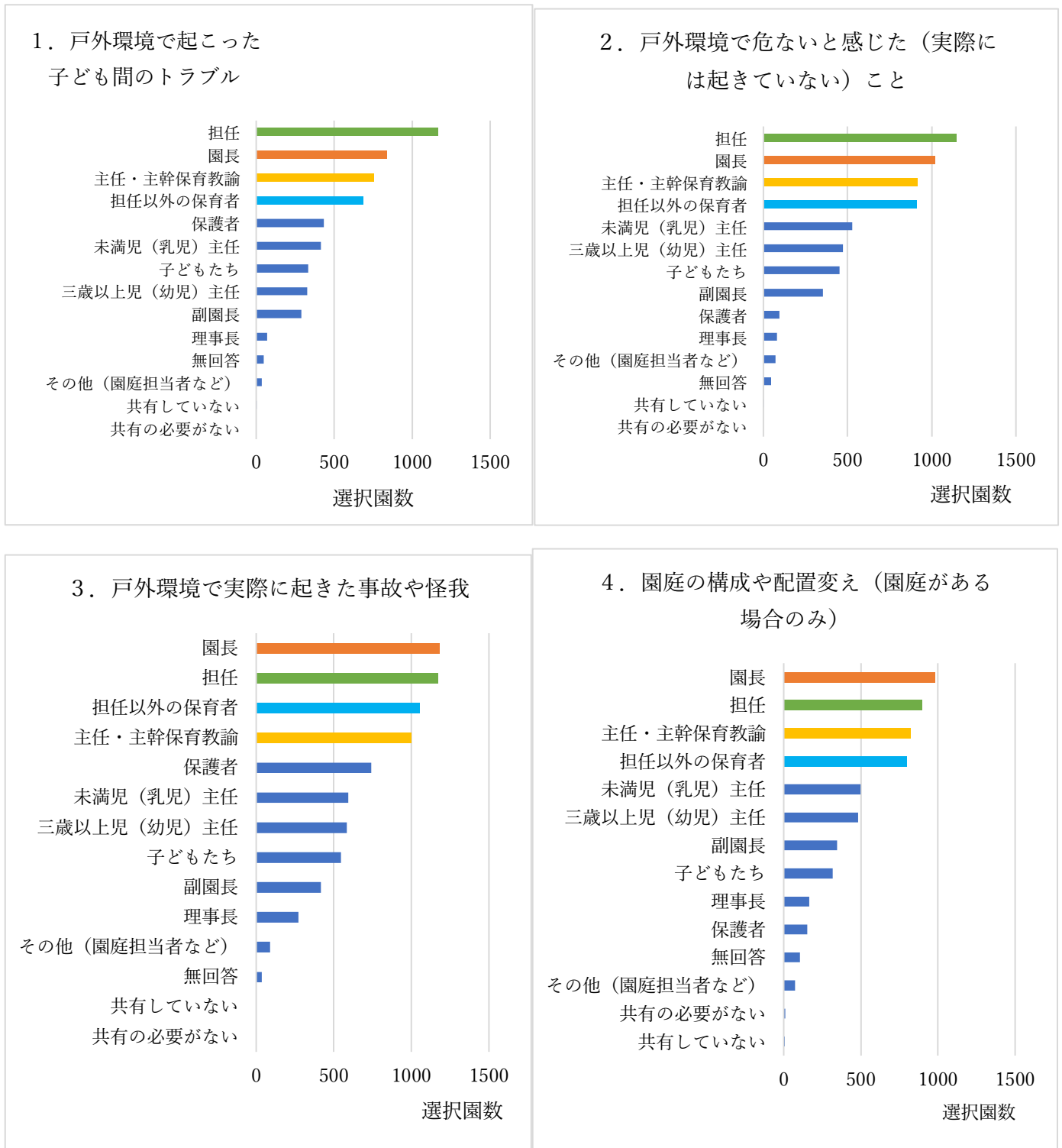
未満児によるそれぞれの行動について、推奨する方向での援助（「様子を見守る」「補助する/一緒に行なう」）および推奨しない方向での援助（「制止する」「その行動が起きる原因を予め排除する」）および「その他」を入れた5項目から最も多いものを選択。



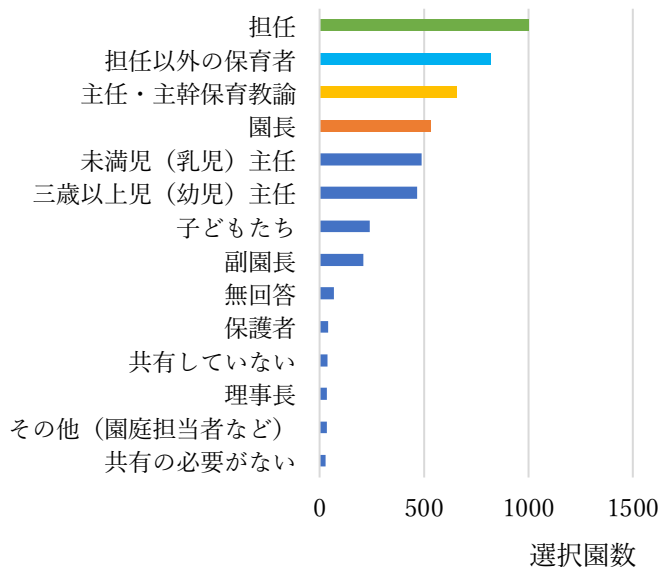
安全等のルールについての援助として、「高いところから自分で降りてみようとしたとき」「虫に触れようとしたとき」などについては一緒に行なったり様子を見守ったりする割合（グラフの暖色部分）が高いが、「植栽・果実を口にしようとしたとき」「地面に落ちているものを口にしようとしたとき」については制止したり予め排除していたりする割合（グラフの寒色部分）が高い。

IV. 園庭や地域利用に関する保育者間・保護者との情報共有

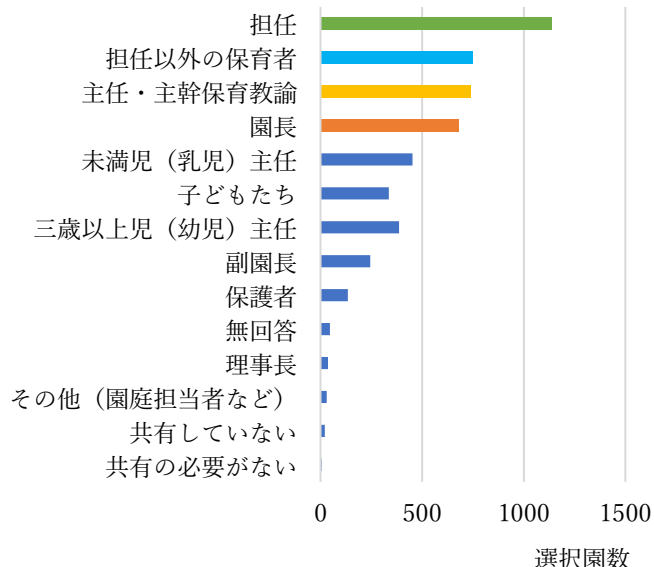
4-1. 情報共有する人物 (N=1234, 複数回答項目)



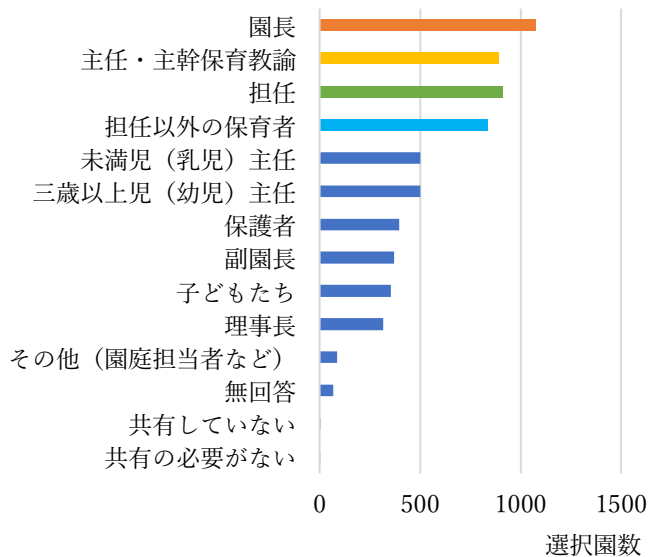
5. 園庭を使用するクラスや時間帯（園庭がある場合のみ）



6. 日ごとの戸外での活動計画や遊びの内容

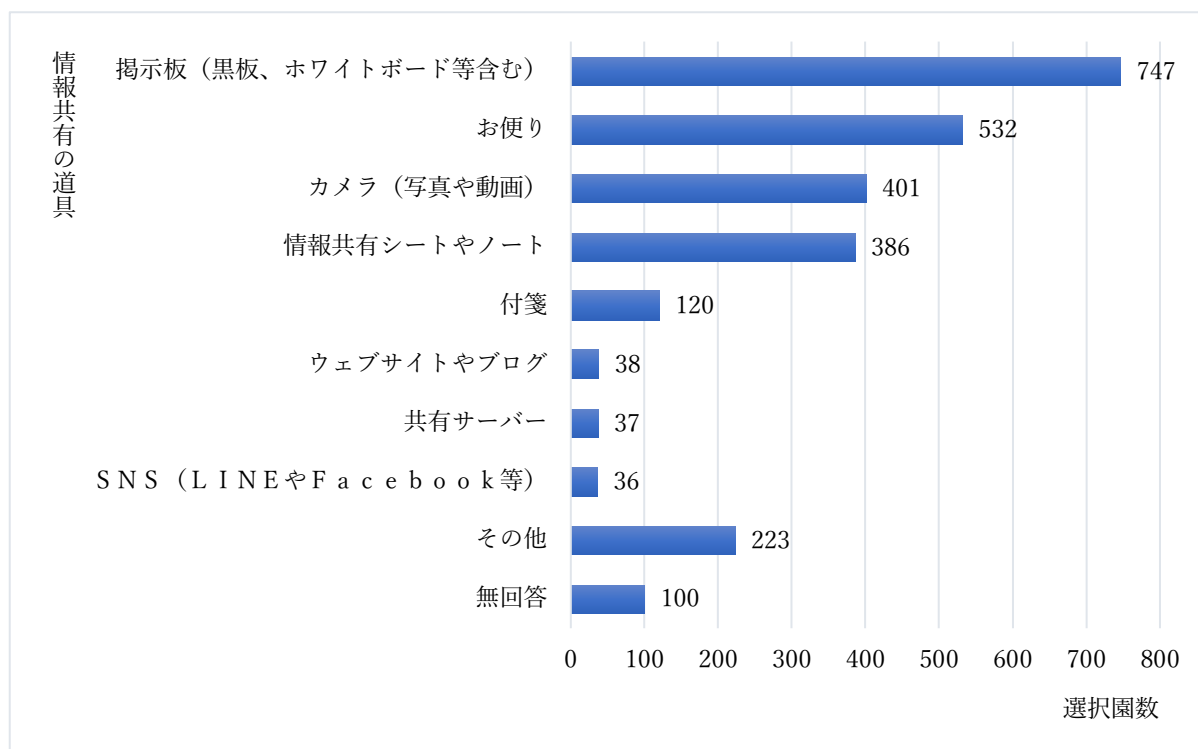


7. 改修や新たな遊具の設置などの園庭の整備（園庭がある場合のみ）



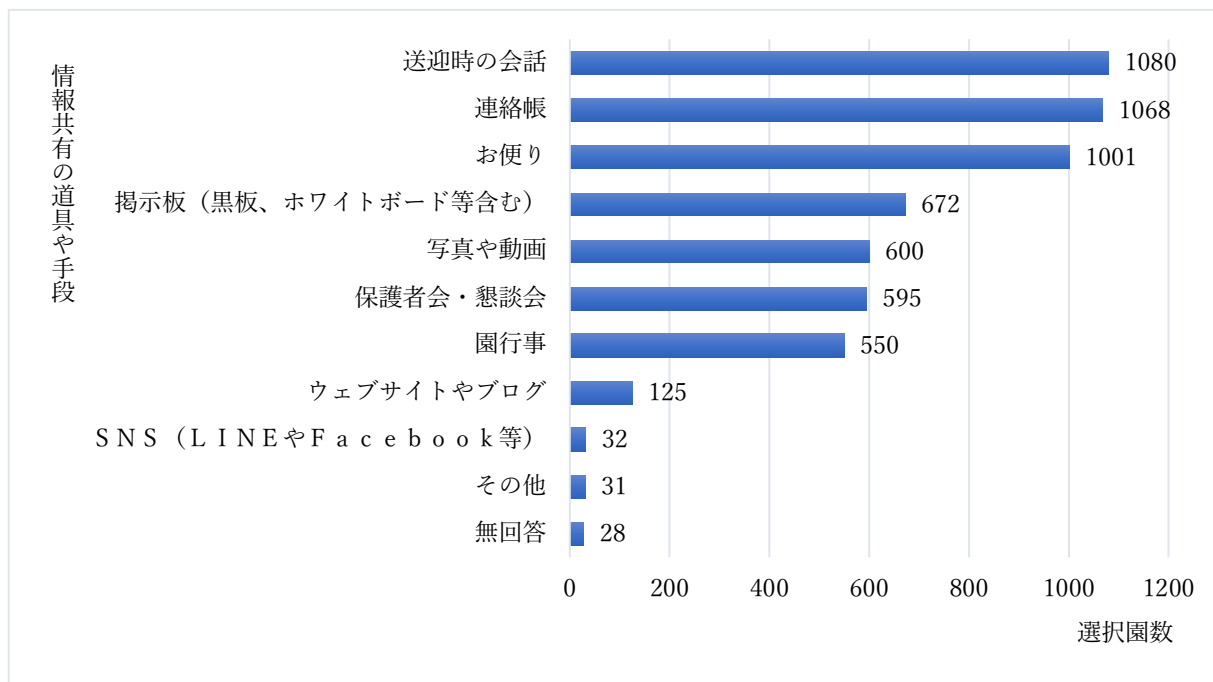
子ども間のトラブル、事故や怪我に関すること（1.～3.）および園庭の構成や配置換え(4.)は園長や担任の共有している園が最も多いが、「5. 園庭を使用するクラスや時間帯」「6. 日ごとの戸外での活動計画や遊びの内容」については担任および担任以外の保育者の共有している園が多い。

4-2. 戸外環境での未満児の保育に関する保育者間の情報共有に役立っている道具 (N=1234)



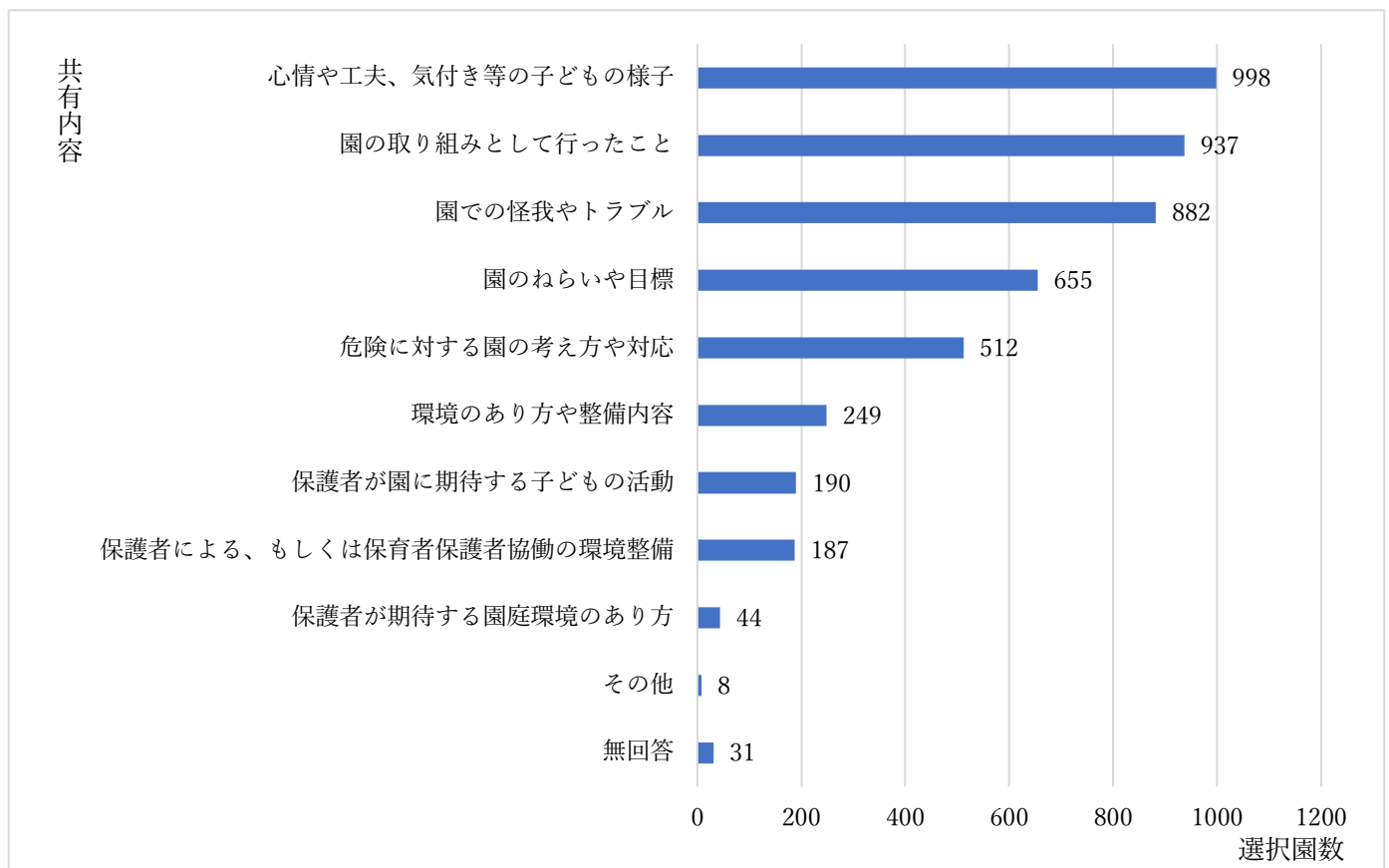
未満児の保育に関する保育者間の情報共有に役立っている道具としては「掲示板」が最も多く、次いで「お便り」「カメラ (写真や動画)」「情報共有シートやノート」となっている。

4-3. 戸外環境での保育について、未満児保護者との情報共有に役立っている道具や手段（N=1234）



未満児保護者との情報共有に役立っている道具や手段としては「送迎時の会話」が最も多く、次いで「連絡帳」「お便り」となっている。

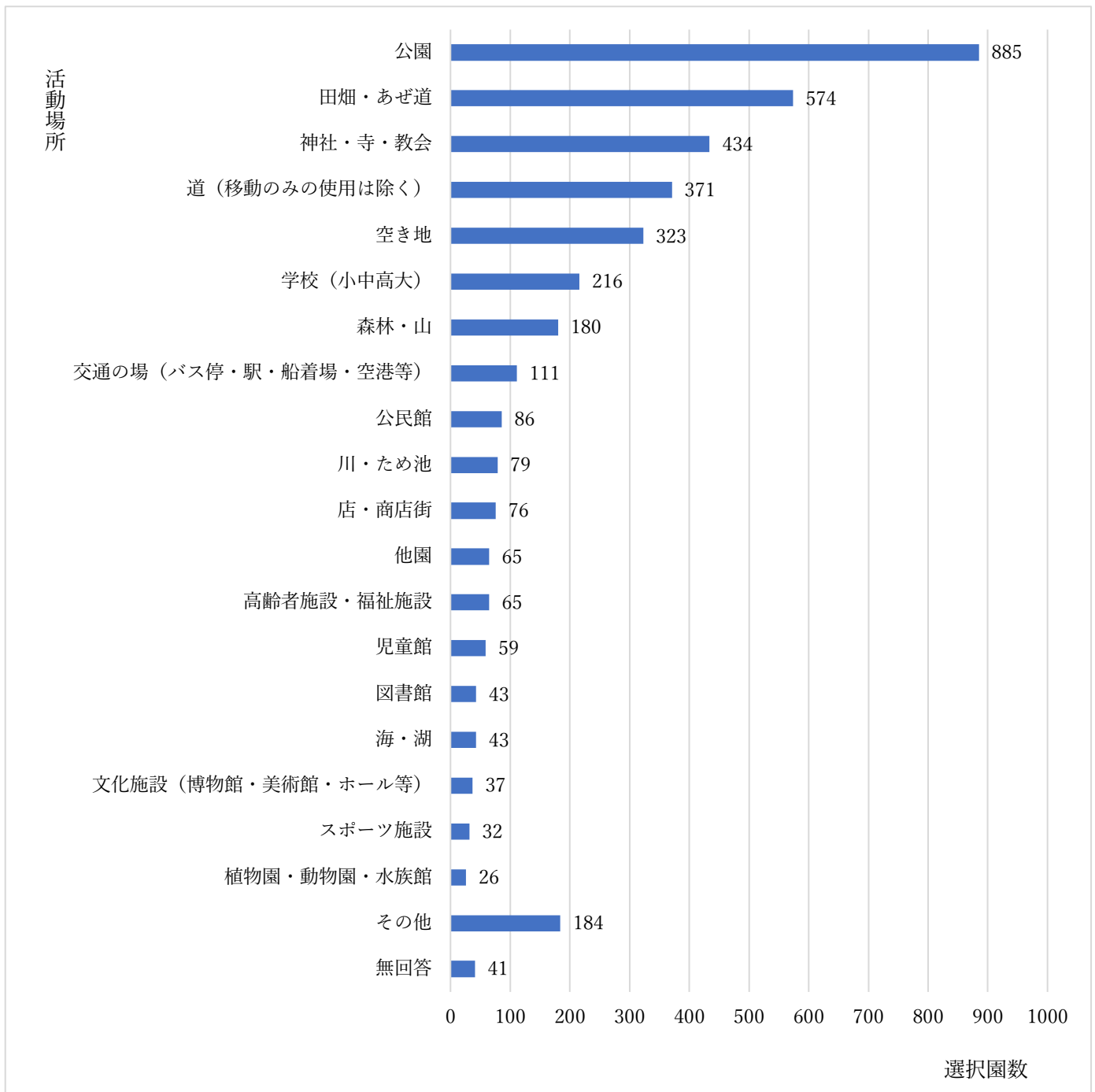
4-4. 戸外環境での保育について、未満児保護者と共有する内容（N=1234）



未満児保護者と共有する内容としては「心情や工夫、気付き等の子どもの様子」が最も多く、次いで「園の取り組みとして行ったこと」「園での怪我やトラブル」となっている。

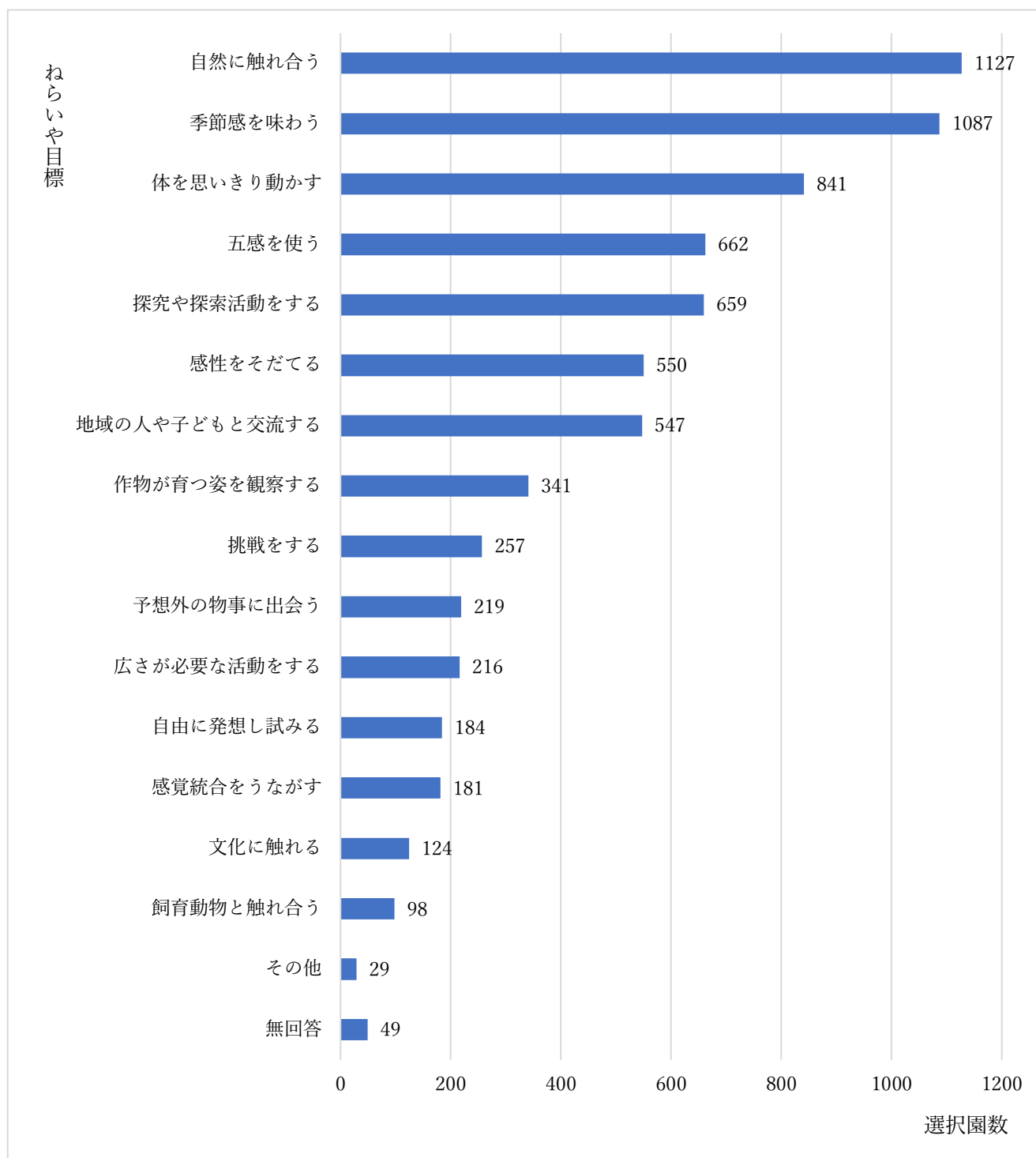
V. 園外で3歳未満児が利用する戸外環境の活用の実態

5-1. 園外での未満児の日常的な活動場所 (N=1234)



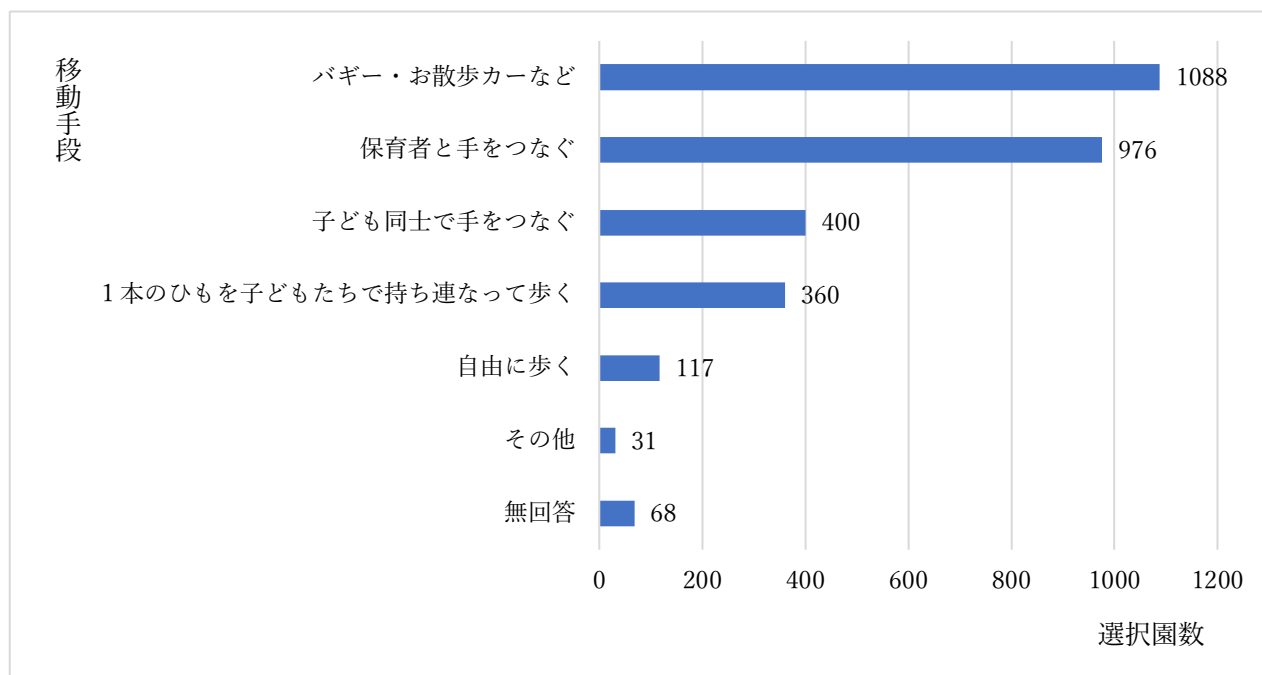
未満児が利用する園外の場所としては「公園」が最も多く、次いで「田畑・あぜ道」「神社・寺・教会」となっている。

5-2 活動場所を利用するねらいや目標 (N=1234)



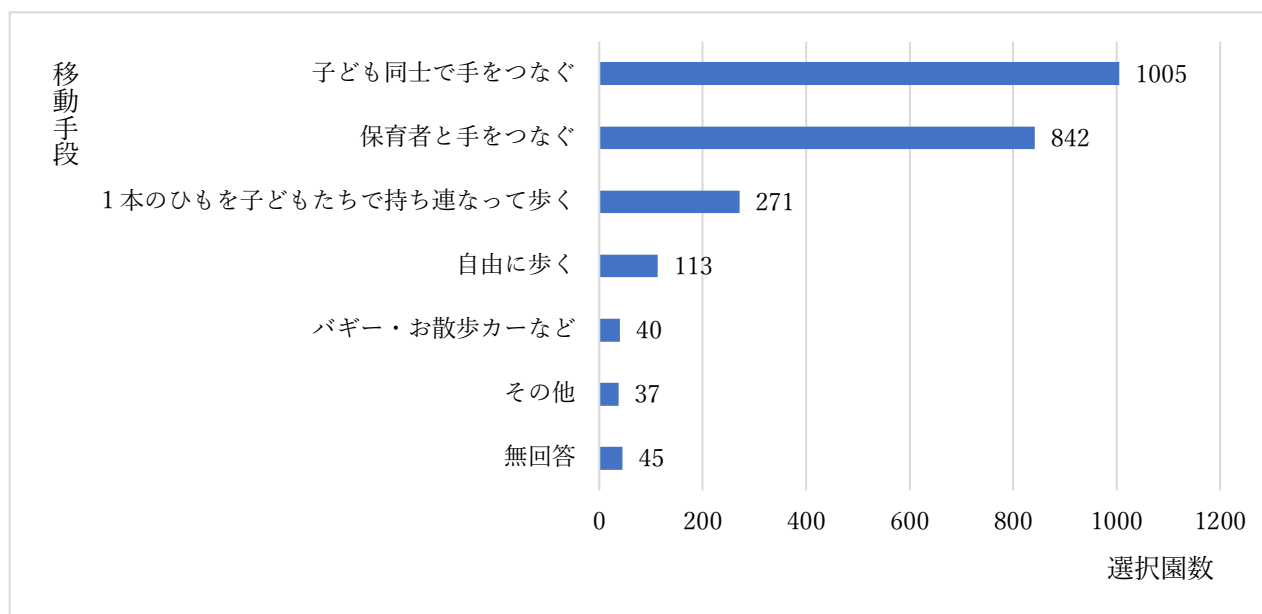
ねらいや目標として、「自然に触れ合う」「季節感を味わう」とする園が多い。

5-3.0, 1 歳児の移動手段 (N=1234)



園外の活動場所への移動手段として、0, 1 歳児は「バギー・お散歩カーなど」が最も多く、次いで「保育者と手をつなぐ」となっている。

5-4. 2 歳児の移動手段 (N=1234)



園外の活動場所への移動手段として、2 歳児は「子ども同士で手をつなぐ」が最も多く、次いで「保育者と手をつなぐ」となっている。